

(別紙様式 = 小学校用)

都道府県番号	35
都道府県名	山口県
【 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 】	

学校名及び規模

学校名	周南市立鹿野小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数 13
学級数	1	1	1	2	1	1	2	9	
児童数	22	24	24	43	33	38	3	187	

研究の概要

(1) 研究主題

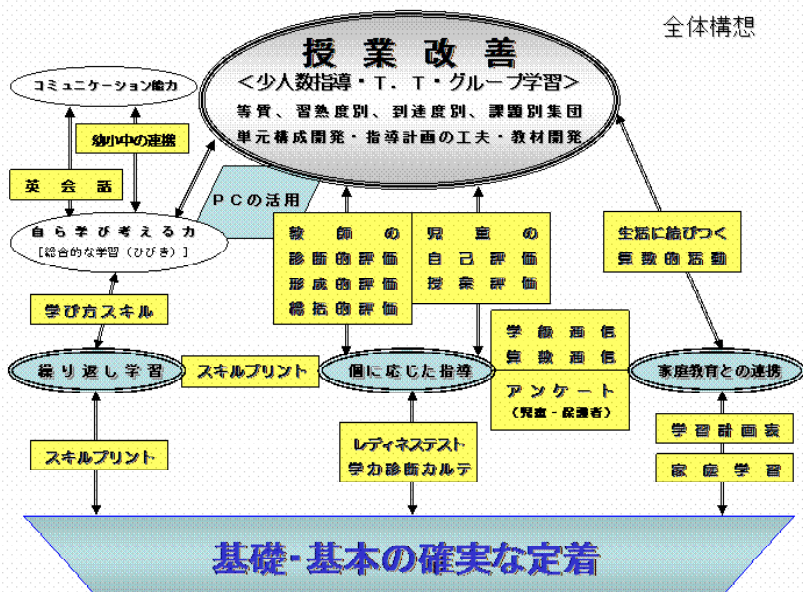
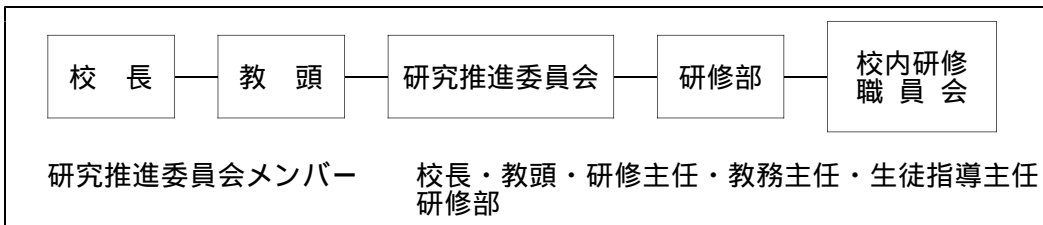
「基礎・基本の確実な定着をめざして」  
～一人一人の学力を伸ばすための家庭教育との連携～

(2) 研究主題設定の趣旨

算数科において、個に応じた学習指導を工夫し、授業改善を図るとともに、適切な繰り返し学習ができるスキルタイムを教育課程に位置付けたり、家庭学習での学習の振り返りを習慣化したりすれば、基礎・基本の確実な定着を図ることができるであろう。

研究の概要

(1) 研究推進体制の工夫



(2) 研究の実際

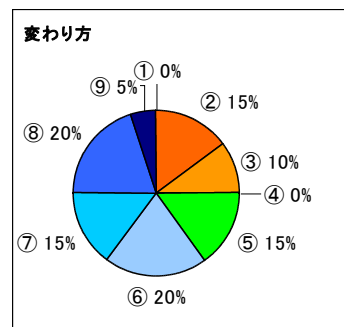
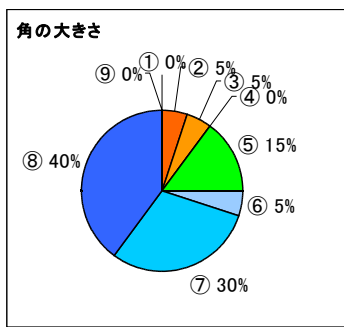
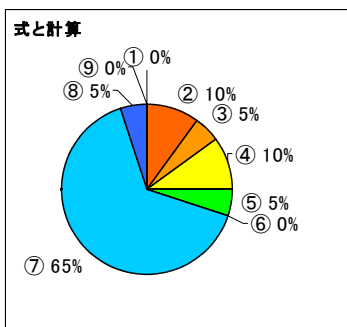
- 個に応じた指導・評価の工夫
  - 学力診断テスト（学年末に実施）や教科書指導書付録のテスト（単元終了時・学期末に実施）に基づく学力診断カルテの作成と変容調査
  - 学力診断カルテに基づく個に応じた学習指導の工夫
  - 評価規準表に基づく診断的評価・形成的評価の工夫
  - 児童による自己評価・授業評価の活用
  - 学期末、学年末の総括的評価を踏まえた評価規準表の見直し
  - 授業改善
    - ・ 効果的な指導計画（指導形態・指導方法）の工夫（多目的スペース・視聴覚機器の利用）
    - ・ 単元構成の見直し・教材開発
- 繰り返し学習（スキルタイム）
  - 教育課程の見直し
  - 領域別、習熟度別スキルプリントの作成・管理
  - スキルタイムの進め方・評価
- 家庭教育との連携
  - アンケートによる実態の把握
  - 学習計画表・学級通信・算数通信による家庭学習の啓発

(3) 研究の成果と課題

- 個に応じた指導・評価の工夫の成果
- ア 学力診断カルテの作成と活用
  - 学力診断カルテに、学力診断テスト（学年末に実施）と教科書指導書付録のテスト（単元終了時・学期末に実施）の結果を記録した。その結果をもとに、スキルタイムや家庭学習を利用して個に応じた課題を与えることができ、苦手な領域の克服や発展学習等による思考力の育成に努めている。
  - 学力診断カルテに、児童の学習傾向や変容、主なつまづき等を記録することにより、次年度に児童の実態を的確に把握することができ、診断的評価の資料として活用することができる。
  - 教科書指導書付録のテスト（単元終了時・学期末に実施）の結果を比較することにより、学力の定着度を検証することが可能となった。

事例) 第4学年

C : 50点未満      B : 50点以上80点未満      A : 80点以上  
 A C B C C A B B  
 C B A A B A C A



単元終了時と学期末を比較して、得点が上がっている児童が過半数に達している単元、「式と計算」、「角の大きさ」、「変わり方」については、繰り返し学習（スキルタイム）、家庭学習の成果といえる。一方で、得点が上がっているものの、Aが過半数に達していない「変わり方」については、今後、重点的に繰り返し学習が必要であるなどの課題をつかむことができた。

イ 診断的評価の活用

単元始めに、領域の系統（出席番号順・等質・習熟度別グループ）や課題（課題別グループ）を踏まえたレディネステストを実施することにより、児童の実態を把握したり、グループ（等質・習熟度別グループ）分けの資料としたりする。児童にとっても、これまでの学習を振り返ったり、これからの学習への課題をもち、課題解決のために自分に合ったコースを選択したりすることができる。この活動の積み重ねにより、自己評価力が向上し、レディネスに応じた適切なコースを選択できるようになってきたと感

じている。

ウ 形成的評価の活用

小単元の変わり目に形成テストを実施して、グループ（到達度別）を変更することもある。また、習熟度別グループにおいて、指導計画によっては、小単元途中でも、グループの行き来を自由にした。これにより、児童は自分の学習状況を振り返り、主体的に学習に取り組むようになったと感じている。

毎時間の授業実践を記録（少人数指導実施記録）することにより、児童の学習の様子や変容を振り返り、次時の授業改善へとつなげた。これは教師間の情報交換の一つとしても役立っている。また、昨年度の少人数指導実施記録から、児童のつまづきなどを事前に把握することができ、効果的な指導形態・指導方法を探ることができた。

エ 自己評価・授業評価の活用

カード等を利用して学習を振り返らせる活動を継続的に行うことにより児童の自己評価力の育成を図った。自己評価力は少人数グループでの正しいコース選択だけでなく、児童の主体的な学習につながる重要な力である。授業評価と併せて時間の確保が難しく、また評価項目の内容に工夫が必要であり、今後も実践検討していく必要がある。

オ 総括的評価の活用

日々の少人数指導実施記録や学期末、学年末の総括的評価を活用することにより、評価規準において、小単元で重点を置く観点や、「努力を要する」児童への手だて、「十分満足できる」と判断できる児童の様相などを見直すことができ、より児童の実態に合うものとなるよう改善している。



<多目的スペースの活用 第4学年学習会>

<TTによるスキルタイム>

個に応じた指導・評価の工夫の課題

二年間の実践をもとに、少人数指導実施記録や評価規準表から、児童の生活に生きる授業構想、指導法の工夫を図る。

操作活動やコンピュータを利用したコンテンツの開発に努める。

各種評価活動を充実させ、評価計画を作成することにより、より個に応じた指導をめざして授業改善に努める。

学力診断カルテや自己評価による自己診断を行い、今後の学習の在り方を探らせる。

総括的評価を踏まえた評価規準の見直し、作成を行う。

(4) 研究成果の普及の方策

平成15年8月12日(火)

研修視察 大島町教務主任会(5人)

概要説明(少人数指導、評価の仕方等の具体的な取組について)

平成15年10月30日(木)

公開授業発表会 校外参加者15人

6年生授業公開(少人数指導 算数科)

研究発表 研究協議

指導講評(周南教育事務所 指導主事)

指導講話(広島大学教育学部附属東雲小学校 教官 松浦武人 先生)

平成15年12月4日(木)

研修視察 山門三池郡小学校校長会(26人)

概要説明 質疑応答

授業参観(5年生 少人数指導 算数科)

平成16年1月23日(金)

周南管内学力向上フロンティア事業地区協議会(53人)

実践発表 研究協議

ホームページ作成

本年度末に公開予定

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校

【学校規模】  6学級以下  7～12学級  
 13～18学級  19～24学級  
 25学級以上

【指導体制】  少人数指導  T・Tによる指導  
 一部教科担任制  その他

【研究教科】  国語  社会  算数  理科  
 生活  音楽  図画工作  家庭  
 体育  その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント】

学力診断カルテ、診断的評価等の多様な評価の活用

評価結果を生かしたスキルタイムや家庭学習、グループ編成、授業改善